

松山櫛便り

第34号

購読
無料

1日・15日発行・櫛に関する情報求ム!

福岡県久留米市田主丸町で活動中!

編集・発行

松山櫛復活委員会

幹事・矢野真由美

耳納山の片隅で失われてしまった櫛紅葉の景観を復活させることを目的に、櫛の素人がまったりとその様子を伝えていく会報です。

ブログ公開中「松山櫛復活奮闘日記」<http://blog.goo.ne.jp/elster/> 連絡先 e-mail : elster@mail.goo.ne.jp

ホームページ「松山櫛復活委員会」(櫛便りのバックナンバーあり) <http://www.webn-design.com/~mhaze/>

弓の素材としての櫛 その1

古事記の中に登場する 櫛弓(はじゆみ)

古代から和弓の材料に

今回からは弓の素材としての櫛について書きます。櫛は、なんと古代から弓の原材料として重宝されてきたのです。和銅五年(712)に献上された日本最古の歴史書「古事記」の中に、「櫛」

で作られた弓の記述があります。今回はその部分を紹介いたします。

因幡の白ウサギで

有名なあの神様

ヤマタノオロチ退治事件の後、須佐之男命(すさのおのみこと)の子孫である大国主神(おおくに

ぬしのかみ)が登場します。因幡の白ウサギの話で有名ですね。大国主神は美形で女性にもてたためか、何かと嫉妬されて受難にあうパターンばかりですが、今回も女性がらみの話です。

神様がが増えて大騒ぎ

須佐之男命の娘、須勢理毘売(すぜりひめ)と結婚した後、大国主神は豊葦原水穗国の国作りをはじめます。いたる所で多くの妻を娶って子供ができたので神様の数もどんどん増えていきます。

ある日、天照大神は自分の子供である天忍穗耳命(あめのおしほ

みのみこと)に、この国を治めよと命令します。しかし命が天の浮橋から見下ろしてみると、大勢の神様たちがでんでんに大騒ぎしていたので降りる気にならず、引き返してしまいます。

そこで大神は天菩比神(あめほひのかみ)を遣わせることにしました。天菩比神は大国主神の手下になってしまつて三年経つても戻らなかつたため、今度は天若日子(あめわかひこ)が降りることになりました。

貴重な神器を預けるが

大神は天之麻迦古弓(あめのまかこゆみ)と天之波波矢(あめのははや)を天若日子に授けます。ところがまたもや戻ってきません。天若日子は大国主神の娘を娶ってしまったからです。

天照大神と高皇産靈神は、またもや相談して「名鳴女(ななきめ)」

という雉(きじ)を送り出します。きじの名鳴女は、天若日子の門の側の木に止まつて細部まで大神の言われた通りに伝えますが、その時、天佐具売(あめのさくめ)という女性が「いやな鳴き声を出す鳥を射てしまいなさい。」と天若日子をそそのかします。

天若日子は大神から授かった天之波士弓(あめのはじゆみ)と天之加久矢(あめのかくや)で、雉の名鳴女を射殺してしまいます。

天之波士弓こそ…

とまあ、まだまだ古事記の楽しい話は続くのですが、どこに櫛が出てくるかというところ天照大神が天若日子に授けた天之麻迦古弓(あめのまかこゆみ)、または天之波士弓(あめのはじゆみ)こそ、はじゆみ(櫛)で作った弓だといわれているのです。

続きは次号にて



※本会報を許可なく複製・転載すること、または部分的にもコピーすることを禁じます。